

技術士包装物流会関西支部 福喜多俊夫

＜中国 EV 情報 82＞では 2017 年 6 月に入手した中国政府諸部門やマスコミからの新エネルギー車、EV 情報を記載します。

1. 中国、新エネ車規制延期へ 販売義務付け 19 年で調整メーカー対応に猶予

中国政府は自動車メーカーに一定比率の新エネルギー車の販売を義務付ける規則の導入を当初予定の 2018 年から約 1 年延期する検討に入った。電気自動車（EV）などの開発が間に合わないため、メーカー側から延期を求める声が強かった。世界最大の自動車市場である中国の方針修正はメーカー側の新エネ車対応に猶予を与える形になりそうだ。（日経 6 月 6 日）

2. 中国の新エネ車、世界の半数を占める

第 8 回クリーンエネルギー部長級会議、第 2 回革新使命部長級会議の重要な関連会議の一つである国際電気自動車モデル都市・産業発展フォーラム 2017 が 7 日、北京で開催された。中国科学技術部の万鋼部長は挨拶の中で、「中国の新エネ車は重大な進展を実現している。中国の新エネ車生産台数は昨年末時点で 50 万台を突破し、保有台数は 100 万台を突破し、世界の 50% の割合を占めている」と述べた。（人民網 6 月 7 日）

3. 充電スポット、グリーンな外出を支える

中国は 2 年連続で世界最大の新エネ車市場になった。新エネ車普及・応用産業チェーンの重要な一環である、中国各地の充電スポットの建設も急ピッチで進められている。今や中国の多くの都市の駐車場とショッピングセンターで、新エネ車のオーナーは携帯電話でスマート充電スポットを便利に検索し、自らのグリーン外出を支えられるようになった。新エネ車にとっての充電スポットとは、ガソリン車にとってのガソリンスタンドのようなもので、車で外出中に不可欠のインフラだ。電力を主な動力とする新エネ車にとって、タイムリーな充電は安全運転を実現するため必要な条件だ。

新エネ車オーナーは現在、充電スポットを探すため、「星星充電」「驛充電」「充電之家」などのアプリをダウンロードすることが一般的だ。これらのアプリには通常、衛星測位、ナビゲーション、予約、料金支払などのさまざまな機能が搭載されている。オーナーは電力が足りなくなった時に、最寄りの電源を探すことができる。北京市には充電スポットが 8 万カ所設置され、車 1 台当たりで全国最多となっている。充電スポットの急増の裏には、新エネ車の力強い発展、グリーン外出という理念の流行がある。

北京市新エネ車発展促進センターの牛近明主任は「北京で使用されている新エネ車のうち、電気自動車（EV）が 6-7 割を占めており、EV の販売台数は全国の 15-20% を占め

ている。新エネ車市場は高度成長期を迎えている」と述べた。(中国網 6 月 9 日)

4. 米テスラ、上海に巨大工場 「最終調整」と米メディア報道

米テスラが中国・上海市に電気自動車（EV）の巨大工場を建設する方向で最終調整に入っていると米ブルームバーグ通信が 19 日報じた。認可の前提条件として現地企業と合弁会社を設立する見通し。大気汚染問題が深刻化する中国ではEVの普及が進んでいる。テスラの現地販売も急拡大していることから、一気に巨額投資に踏み切る方針とみられる。

イーロン・マスク最高経営責任者（CEO）は昨年、エコカーの世界最大市場である中国に巨大工場を建設する方針を表明しており「2017 年末までに計画を固める」としていた。候補地は江蘇省や広東省も有力とされていた。テスラは 18 年に年産 50 万台の計画を掲げ、中国での量産はその前提となっている。テスラは 3 月に中国ネット大手騰訊控股（テンセント）から 5 % の出資を受け、現地投資に向けた地ならしを進めていた。マスク氏は 4 月に訪中し、汪洋副首相と会談した。(日経 6 月 21 日)

以上